

Excel とデータ分析ツール (Power BI) を使った分析体験の最初の一步

日本マイクロソフト株式会社 畠山 大有

ChatGPT が登場し既にご利用されている方もいらっしゃると思います。ChatGPT は、既存のデータを基にして文章やプログラムのコードなどを作成できるという特徴を持っています。そのお仕事での利用で明るみになってたことですが、ChatGPT 自身は、与えられた指示をする事しかできないため、そもそもの仕事の仕方は利用者が指示をする必要があるという事です。データを通じてビジネスの傾向を見たりといった分析をするわけですが、データの分析をしたことが無ければ、その手順がどれほどの労力を使うのか、あるいは分析して果たしてお仕事の役に立つのかを知る事ができません。つまり、お仕事上の価値があるかどうかの判断も出来ないという事に繋がっていきます。

データの分析の書籍・セミナーは巷に溢れています。ですが、実際にそれを使った成功例は実は多くはありません。その原因の一つに知識として知ってはいるものの、実施したことが無いという事があげられています。

デジタル化でないと得られない業務効果としては、以下の 2 つが挙げられます。

- 作業の自動化
- データの集計

これは実は、コンピューターを業務で使う目的そのものであって、昔から変わっていません。この研修では、データ分析の作業をご自身で一通り体験してみる過程を通じて、データ分析そのものやツールの価値を見直します。Python は一切使わずに、Excel と無料の Power BI Desktop のみを利用します。その目的が表計算あるいはデータ分析ツールのどちらで達成できるのかを一緒に考えます。

またデータについてはご自身で扱っているデータを持参頂きます。なぜかといえばですが。実はデータを扱う手法は統計や機械学習などを含め実はこの数十年変わっていません。ですが、書籍を読んだりセミナー受講しても身につかない事が多いのです。それは、ひとえに作成されたデータ毎に実施する作業が異なるからです。ご自身のデータを対象にする事で、身近な課題の解決にもつながりますし、他の課題でも扱える基礎が身に付きます。



国内外での 300 社以上の IT プロジェクトにアーキテクト及びエンジニアとして関与して約 25 年の経験。業界初として事例化されたものには、フジテレビ、楽天、毎日新聞、日経新聞、富士フィルム、カルビー、コマツなどがある。

また、東芝、SONY、NTT-Data、NextScape など 50 社以上のパートナーと、ソリューション製品・サービスの開発・市場展開も行う。

そこでの学びを、TechEd、de:code、TechSummit、InterBEE など基調講演を含む場で 400 回以上のセッション登壇。

また、書籍・雑誌や Blog 執筆、サンプルコードの公開などで社会に Feedback 中。セッションだけでなく、100 回以上のハンズオン、ハッカソンのファシリテーションも行っている。